



山林實地著手心得

837



114
A 3843



著者心得大意

第一章 伐木

第一条 伐木ノ法多端ナレトモ要ハ左ノ三法トス

第一 經濟伐木 全國ノ經濟ヲ計リ人口ノ多寡一歲需用ノ負數

等伐採需用其度ニ適シ平均ヲ失ハサルヲ云

第二 窮理伐木 陰陽ヲ調和シ國土ヲ保安スル

寒暑凡雨ヲ適宜ニシ雷震ノ下擊ヲ減サシ
其他水利ヲ助ケ凡景ヲ毋節スル等 所以ノ理ヲ窮ム

伐採ニ從事スルヲ云

第三 供給伐木 一朝事アルニ臨ミ其需用ニ供

給スル為メ伐木スルヲ云

第二条 伐木ハ先ニ其林相ヲ檢シ豫算ヲ定ムルヲ緊要トス

其法左ノ如シ

第一 樹木ノ種類及生立年終ニ達スル審ヲシ即今伐

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

採ナス(キカ)将ヲ保存ナス(キカ)判ツ(ハシ)

第二 地勢ノ隘易運輸ノ便否ヲ計較シ之方實測
繪圖面ヲ製シ豫シメ著手ノ方器ヲ定ム(ハシ)

第三 豫シメ其費用ト收利トヲ審算シカトテ簡便
ノ方法ニ從ヒ中途失算差^ズ跌^ナキヲ要ス

第三條 經濟伐木ノ法左ノ二法トス

第一 方伐^(ホウバ)

年經ノ正ニ伐採適度ニ及^ル者ハ^{九百二十}
年^{以上}

方伐採ノ適宜トス但シ風土ト木種^ニ
因リ年齒ノ長短アリ且^ニ注意ス^ルシ
ノ區畫ヲ設ケ順次伐採シ從テ培養シ終始順環

缺^ク乏^クナカラシムルコト云フ

第二 間伐^(ケンバ)

新植林ノ茂密メ空氣ノ流通惡シク
其生立ニ妨碍^スルモノハ^{本種}固リ又茂密^ニ
好ムモノモ^凡十年乃

至十五年日

地味風土ニ因リ自^ララ^ク速^クニ^其生立^ニ良^ク
ハ^一尺直徑ニ寸許ノトキ

否ヲ檢シ拔伐スルコト云フ但シ生立ノ様樣ニ因リ三四十
年日再ニ拔伐スルコト云フ

第四條

方伐ヲ施スニ先ツ其伐採ノ位置ト分量トヲ謀ル(カ
ラス是レ經濟伐木ノ緊要事トス

何ヲカ伐採ノ位置ト云フ凡方伐ノ法ハ先ツ其林地ノ廣
狭ヲ計リ而シテ之レ若干區畫トシ一區ツ、各所ニ散在

シテ伐採スルヲ法トス如何トシレハ若シ一隅ニ偏在シテ
順次伐採スルハ數年ノ後其一隅ニ邊セ凡村落ハ

愈林ニ遠隔シテ他日需用ノ砌大ニ不便ヲ生スルヲアレハ
ナリ

何ヲカ分量ト云フ喻ハ此ニ百町歩ノ林アリ凡百年
ニシテ始メテ用材トナル一キ地味見做セハ全區ヲ百分

テ年ニ一町歩ツ、伐採スルカ如クハ全ク百町歩

ヲ伐了スルハ景初伐木セシ跡ニ新樹ハ適サニ成長
恰好ノ期ニ會スニ但シ實地ノ景況ニ因リ自カラ酌量
アルハ蓋シ大方此主意ヲ領スルヲ要ス

第五條 究理伐木ノ法ハ樹木ノ人畜生活ト國土ノ保安
上ニ於テ無限ノ功用アル所以ノ理ヲ明カニシテ伐採ニ
從事スルヲ要ス兵法凡左ノ三法トス

第一 横線伐 ヨコキリ 順次横線ニ伐採スルヲ云フ防風林等

ニ此法ヲ用ユ 防風林ヲ伐採スルハ先ツ風道ヲ按シ其内ニ
ニ此ニル方面ヨリ順次横線ニ伐採スルモトス

第二 縦線伐 タテキリ 順次縦線ニ伐採スルヲ云フ防風林等

ニ此法ヲ用ユ 防風林ハ下流ヨリ縦線法ヲ以テ之ヲ伐採ス
但シ實地ノ都合ニヨリ或ハ横線ヲ用ユ

第三 間隔伐 イキワケキリ 各所ニ間隔點在シテ伐採スルヲ云フ

水源林及ヒ土砂ホリ等 此法ヲ用ユ 但シ寒暑風雨乾
濕等ノ感應及

風景勝致ノ模標ニ回リテハ
自カラ實際相立ニ処アルハ

第六條 凡國土ノ利害ニ關シテ保存ナシニハ林ハ伐採ヲ禁
スト雖モ既ニ年度ニ過クニハ亦時アリ伐採セサル
ヲ得ス然レモ他ノ尋常林ノ如ク年々伐採ス(カラス必
其中幾部分ヲ伐リ而シ其跡地ニ培植セル新樹ノ稍
其利害ニ堪フ(キ度ヲ計リ順次伐採スルヲ法トス是
皆窮理伐木ノ事ニ屬ス

第七條 供給伐採ハ該工用材ノ大小負數ト工事ニ地方
ノ遠近トヲ比較シ便宜ノ林ニ於テ恰好適度ノ用材
ヲ求ムルヲ要ス

第八條 凡伐木ニ秋冬ヲ期トス春夏ノ交ハ植物成長ノ節
ニメ漲漲多キヲ以テ之ヲ伐ルニ宜シカラス但シ早寒
多雪ノ地ハ此限ニ非スト雖モ寧ロ夏前ヨリハ夏後ニ
若カニ而シ最満月後ヲ善

第九條 廣葉樹ノ芽ハ府性アルモ、或ハ可ク根柢ニ接シテ

伐ルヲ要ス是レ芽ハ府力ノ強弱ニ因スルヲ以テナリ

第十條 人夫ヲ使役スルハ豫シメ一人役ノ課業ヲ定メ此實

錢幾許ト極ムニ假令ハ薪木ヲ伐リ高サ三尺幅

三尺長十九尺ニ積立ルヲ一人役トナスカ如此レ役夫

ヲ鼓使スルノ法ナリ

二章 培養

第十一條 培養ハ山林中暈モ闊ク可カラサル一大緊要ノ事

トス森林アル地方ハ兼テ其備ハナル可カラズ其法ハ三種

トス

第一 苗植 苗木ヲ作り林地ニ移植スルヲ云フ

第二 實植 伐木ノハハ其蒸氣地等ハ直チニ子實ヲ

施コスヲ云フ

第十三條 柳木 樹枝ヲ剪テ地中ニ挿植スルヲ云

第十四條 培養ハ其地味ト風土及木種ニヨリテ自カラズ

別アリ概シテ言ハ寒温ノ地方及ヒ地質硬確ナル

場所又ハ傾斜ノ地樹林ノ間等ハ苗植ヲ可クハ氣

候和煦地味沃美ナル地方又ハ地勢ノ平夷ナル場所

等ハ實植ヲ可トス蓋シ木種ヲ以テセハ針葉樹ハ大

抵苗植ヲ用ヒ廣葉樹ハ實植ヲ用フ然レ其

子實稍大ナル者ハ概スルニ多クハ實植ヲ可トス

第十五條 木實ヲ採摘スルハ各佳期アリ宜シク注意アルニ

要スルニ凡テ要スルニ結實成熟ナシタルイサヲ可トス

木種ニヨリ熟實自ラ差別アリ櫻山毛櫨等ノ類ハ

第十六條 種實ヲ採取スルハ果実宜シク注意シテ樹ヲ撰フニ

大 歳

老木稚樹皆ナ宜シカラス中身ハ庭實直幹ナル
モノヲ擇フヲ要ス

第十五条種實ノ善悪ヲ鑒定スルハ最モ培養中ノ緊要ト
ス之ヲ試驗スルノ法詳畧二様アリ

第一 畧法 十分ニ結實ニテ自カラ光澤アリ斤量
多アル者ヲ擇フ

第二 詳法 瓦器ニ土ヲ盛リ子實ヲ其上面ニ排
撒ニ六十八度乃至七十度ノ溫度ヲ加ヘハ良種ハ
マキ開イテ生氣ヲ微ス開クモノ十中ノ五ヨリ七ニ

居ルモノハ極良ノモノトス

第十六条種實ヲ蓄フハ光線ノ到ラサル所ニテ空氣ノ流
通ヨク而メ風寒ノ害ヲ免ルル所ヲ要ス

第十七条種ヲ施ス時節ハ針葉樹ハ春ヲ寒暖言五十度シ

日トシ廣葉樹ハ秋季熟實ナシタル後廿日許過キタル
時ヲ可トス

第十八条種ヲ施スニ木種ニ因リ自カラ淺深ノ差異アリ根柢
ノ地中ニ深ク入ルモノハ淺ク之ヲ施シ根柢ノ淺キ

モノハ淺ク之ヲ施ス耕ノ又深カラス淺カラルモノハ各
其淺度ヲ計リテ之ヲ施ス
山毛、樟、槐、楓、アカシ、ニ等ノ
葉ハ土ヲ耕フ一二寸ノ深ニ

第十九条實植ヲ為スニ數法アルモ今其概畧ヲ拳ケニ左ノ
二法トス

第一 伐木ノ後再ニ同種ノ樹木ヲ培養セント欲セバ伐
採ノ砌豫ニメ其中直幹健實ニテ年經ノ適中ナ
ル樹ヲ擇ヒ該區積面ノ位置ヲ計リ若所ニ存在
シテ以テ其子實ノ散布ヲ考メ之ヲ母樹ト云フ但其
砌ハ一應該地面ヲ掃除シテ實ヲ一洗スニ是

其苗木ノ生立ニ不同ナリ一
第二伐採ノ後更ニ木種ヲ一新セント欲セハ舊樹ヲ一
時ニ皆ノ伐リ去リ更ニ他ノ移植セント要スル樹木
ノ熟實ヲ待テ直ニ之ヲ施ス（此者シ禽獸虫類
等ノ施實ヲ害スル患アル地ハ春季ニ至リテ之ヲ
施スハ但風土風雪等ノト木種ヨリ陰木ニ庇蔭
多キ地ヲ要スルモノ新生ノ樹ヲ庇蔭セン為メ舊樹ヲ存スルヲアリ之
レヲ蓋木ト云

茅廿条苗植ヲ為スハ先ヨリ其林ヲ作ラントスル地ノ一隅ニ
於テ運輸便利ノ場所ヲ擇ヒ之レカ苗植ヲ設ク（此
但其位置ハ東南塞カリ西北開キタル平面ノ地ニ作ル
ヲ佳トス是レ他ノ日林地ニ移シタル苗子ノ頓
ニ寒氣ニ壓迫セラルヲ慮リ豫メ之ヲ陰地ニ慣

一畝スルナリ蓋シ地味ト風土ニ因（ハシ

茅廿一条苗圃ヲ設ケル（尤ッ其地ノ積面ヲ實測シ土
ヲ鋤クヲ深サ一尺五寸乃至二尺畝幅三尺ニ作クルヲ
法トス且毎畝間一尺許ノ小路ヲ開キ以テ往来ニ便
スハシ

茅廿二条 獸類ノ田圃ヲ害スル等ノ患アル地方ハ苗圃ノ周
圍ニ小藩籬ヲ作り以テ其妨害ヲ防ク（シ

茅廿三条 苗木仕立（此ハ春季寒暖計五十度（春分ノ柳子芽
ハニ發生スルトキハノ節之ヲ施シ翌年再ヒ前季ニ照ラシ其生タル

苗子ヲ一應其圃内ニ移植ス之レヲ俗ニ床替又根
替ト云フ其又翌年（三年
目始メテ之ヲ林地ニ移ス之ヲ
木植ト云フ凡針葉樹ハ大抵此法ヲ用フ但ニ風土ト
木種ニヨリ一際ニ論ス（カラハ更ニ實地ニ就イテ

大 歳 省

注意酌量ス可シ

第廿四条 寒沍甚キ地方ハ冬季寒氣ノ為メ苗根ヲ傷
フコアリ故ニ木炭末ヲ圃面ニ鋪キ以テ寒氣ノ刺
衝ヲ防ク(シ又雪多キ地方ハ樹枝ヲ交立シテ其上ヲ
蔽キ以テ其壓迫ヲ防ウ要ス

第廿五条 苗木栽培ノ位置ハ凡三尺ノ距離ヲ取ルヲ通法
トス但シ木種ト地勢ニ從ヒテ自カラ差異ナキヲ得ス
注意アル可シ 傾斜ノ地ハ距離ヲ廣クシ格於等シ
栽ニハ距離ヲ狭クスルノ類

第廿六条 苗木成長ノ度ヲ計リ十年乃至十五年日九月
通リ
七寸位ニ至間伐ヲ施シ惡木下枝ヲ除去シ以テ其成長
ヲ助ケ之ヲ手入伐ト云 間伐ノノ第 但シ間伐ニ成
ニ条ニ見テ
ルニシテ其位置ヲシテナラシムルヲ要ス且ツ枯枝ヲ拂フ
ニ成ルニク幹身ニ接シテ伐ルヲ要ス

三章 登賣

第廿七条 登賣ハ競糶ノ法 用ニ其法ハ材木ノ大小種類ヲ
分チ之レヲ便宜ノ地ニ排列シ一ニ番号ヲ施シ以テ
點檢ニ便ナラシム

第廿八条 既ニ排列ナシタル上監守人又ハ戸長ニ於テ之ヲ點檢
シ其材木ノ原價夫役ノ賃錢及ニ其他諸標費ヲ
合算シ之レニ二歩五釐乃至五歩ノ利ヲ乘シ以テ其價
額ヲ定ム然レ後支局長又ハ該閣ノ官吏再ヒ之ヲ
檢シ而シテ其價額ノ實位ヲ確定ス之レヲ大藏省ノ
歳入トス

第廿九条 既ニ價額ヲ取極メタル上凡ク四方ハ公告シヨラ
刻レテ之レヲ登賣ス其法ハ先ツ最前取極メタル
價額ヲ呼起シ買客ヲシテ其外ニ幾許ノ價ヲ競

大 歳 省

定セシ即ハ千其外ニ刺加スルモノハ總テ山林局ノ收利

ニ屬ス

第卅条 競賣ノ節用ニ所ノ表左ノ雛形ノ如シ

番	木種	長短	薪炭	同等級	負數	見取	賣價	月日	買受人住居
一									
二									
計合									

第卅一条 凡官用ニ供給スル材價ハ最前伐採ノ砌ヨリ該省
 寮一引渡セシマテノ總入費並ニ林木原價ヲ合算シ
 之レ一步乃至三步ノ差以テ其價額ヲ定ムル
 ノトス是レ皆大藏省ノ歲入ニ屬ス

四章 貯木

第卅二条 凡貯木所ハ素々競賣ノ餘材ヲ蓄フル所トス
 但シ各省府縣緩急ノ需用ニ備フル為メ特アリ始
 メヨリ炭賣ヲ為サズ直チニ之レ以テ貯藏ニ以テ其
 請求ニ供給スルヲアルヘシ

第卅三条 貯木所ハ港灣川沼ノ地ニテ極メテ運搬至便ナル
 場所ヲ擇フヘシ

第卅四条 材木ヲ貯藏スルノ法大約左ノ二法トス

第一 灣形ヲナシタル場所ニ於テ水中ニ貯フモノ俗ニ
 之レヲ水田ト云フ大材ノ耐久ヲ要スルモノ多ク此
 法ヲ用フ

第二 陸地ノ稍高燥ナル場所ニ於テ巨廠ヲ設ケ下面
 ニ鋸末ヲ敷キ而シテ臺木ヲ施シ其上ニ積ミ蓄フ

モノ俗ニ之ヲ陸田ツカヒト云フ小麻アサ又ハ板子イタ等ニ此
法ヲ用フ

第廿五条 伐採ヲ為スニ當リ左ノ人負テ要ス

一 伐採著手一切ノ事務ヲ總管スルモノ 二人 但ニ山林ニ係ルニ

法其他伐採中ノ諸會計及ニ
實地測量等ノ事ニ得ルモノ

一 製繪書記ヲ司ル者

一 人夫ヲ引率指揮スル者

ノリ心
得ルモノ

一人 但ニ木作
并運搬等

明治九年二月

奉

地理寮十等出仕 深井 寛
地理寮御雇 松野 礪

